

哲 學 研 究

第 七 卷 第 十 三 册
第 七 十 九 號

大 正 十 一 年 十 月 一 日 發 行

繪畫の優劣は如何にして可能なるか……………

……………文學士 植田 壽藏

アッハの近業、概念形成の實驗的研究……………

……………文學士 大脇 義一

順世外道論(完 結)……………文學士 手島 文倉

財産の倫理的性質……………文學博士 藤井健治郎

新著紹介其他……………

大正五年四月六日第三種郵便物認可
大正十一年九月二十五日印刷(本) 毎月一回一日發行

京 都 帝 國 大 學 文 學 部 內 部
京 都 哲 學 會

京都哲學會規則

- 第一條 本會ヲ京都哲學會ト稱ス
- 第二條 本會ハ廣義ニ於ケル哲學ノ研究及其普及ヲ以テ目的トス
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
- 一、毎月一回研究會ヲ開ク
 - 一、毎年春秋二回公開講演會ヲ開ク
 - 一、毎月一回雜誌『哲學研究』ヲ發行ス
- 第四條 本會事務所ヲ京都帝國大學文學部内ニ置ク
- 第五條 本會ノ事業ヲ經營スル爲メニ左ノ役員ヲ置ク
- 一、委員(若干名) 京都帝國大學文學部哲學科教官及委員會ニ於テ推薦シタル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一、書記(一名) 委員會ニ於テ囑託ス
- 第六條 本會ノ趣旨ニ賛同スル者ハ何人ニテモ會員タルコトヲ得
- 學校、圖書館、教育會、其他ノ團體ハ其團體ノ名ヲ以テ入會スルコトヲ得
- 第七條 會員ハ會費トシテ年四圓四拾錢、前後二期ニ分チテ前納スベキモノトス
- 第八條 會員ハ本會ノ諸種ノ會合ニ出席スルコトヲ得且ツ雜誌、『哲學研究』ノ配付ヲ受ク
- 第九條 本會規則ノ改正變更ハ委員會ノ決議ニ依ル

京都哲學會役員

委員

書記

文學士	植田壽藏
文學博士	狩野直喜
文學博士	小西重直
文學士	澤村專太郎
文學博士	高瀬武次郎
文學博士	田邊
文學士	千葉胤成
文學博士	朝永三十郎
文學博士	西田幾多郎
文學博士	野上俊夫
文學博士	波多野精一
文學博士	深田康算
文學博士	藤井健治郎
文學博士	松本文三郎
文學士	務臺理作
文學博士	米田庄太郎
書記	寶嚴方夫

本の杜撰な所なども眼障りになつて、どうか速に此の難點の匡正される日の一時も速かに來らんことを此に祈つて置きたいと思ふ。佛敎及び基督敎研究者のために切に一讀をお勧めする。(定價貳圓 東京麹町區山元町一ノ三、新光社發行) (手島文倉)

原始佛敎思想論

文學博士木村泰賢著

原始佛敎の研究に關しては、英國や獨逸その他に於ても多くの碩學と諸種の研究發表とがあるが、否、泰西佛敎學者の大半は唯佛敎大家等の除外例を別として、殆んど皆巴利聖典の研究者と評して宜い位であるけれども、惜しい哉彼等は大乘佛敎に對して餘り多くの同情を持つてをらぬやうである——寧ろ持ち得ない事情にあるのであらうが。然るに本書は此の缺點に重心を置いて、『特に大乘思想の淵源に注意して』と表題して原始佛敎思想の一般を論究せんとしたので、本書の特色は全く此の點になくてはならぬと思はしめる。然し斯う期待して大乘思想の興起と原始佛敎との脈絡が十分闡明されることであらうと豫想して讀みかゝつてはならない。夫れは如何に大乘佛敎の空氣中に育つた吾人と雖も、甚だしい獨斷と臆説と空想とを振り撒くに非れば到底望み難いほど資料に於て缺乏してゐるからである。先づ本書に述ぶる位の所が實際の文獻に根據を持つた立論であるかも知れないが、吾人は著者が資料を惜しみます少しく想像を逞うした思想發展論を讀まして呉れるであらうことを期待してゐた者の一人であつた。

本書は三篇より成り、第一篇を大綱論として原始佛敎當時の社會を説明し、傍ら佛敎々理の網格を概示せられ、第二篇は事實的

世界觀の題下に苦集二諦を説明せられ、更に第三篇に入つて理想とその實現の題下に滅道兩論を説かれてゐる。而して一讀者の率直な感想を記す三篇中最も説明に於て巧みを極めたものは第二篇であり、聖典引用に成功せられたのは第三篇であり、第一篇は單なる序論として餘りに重要でないやうな、今少し簡單に往けそなうな感があつたやうである。兎もあれ著者が海外旅行の途上、敢て常人の企て得ざる大勞作を斯うまでシステ、マテイックに編みあげられた努力に對しては、吾人は心から驚嘆と感謝の念を禁ずることが出来まいと思ふ。それは前記ホフマンの原書ほど熱に於ては足りないかも知れないが、原始佛敎の思想を論究した點では遙かに泰西學者の及ばない所であらうと信ずる。阿鼻地層佛敎の由來變遷や引いて印度佛敎史一般の研究が、一日も速やかに同じ著者の手から發表されんことを今から指折り數へて待つてゐたいと思ふ。著者に重ねて努力を渴望したい所である。而して我邦の一般佛敎徒特に荷も寺院の生活をするほどの大徳方は、少なくとも本書を一讀再讀して竭きざる興味を覺ゆるやうになられんことを切に／＼祈る次第である。(定價四圓、東京内午出版社發行) (手島文倉)

寄贈書籍雜誌

哲學雜誌、丁西倫理講演集、心理研究、東洋哲學、日華公論、教育研究、内外教育評論、學校教育、教育學、教育時論、教育界、精神運動、國際聯盟文化運動、藥王樹、三田文學。

前 號 目 次

美と善……………	行爲的主觀……………	實驗的内省に就いて……………
文學博士 西田幾多郎	文學博士 西田幾多郎	文學士 岩井勝二郎
	順世外道論(承前)……………	社及社會考(二)……………
	文學士 手島文倉	文學士 浦川源吾

告 會

- 一、本會へ入會希望ノ方ハ直接本會宛テニ規定ノ會費(前表紙裏ニアリ)御納付ノ上御申込被下度候
- 二、會員ニシテ轉居ノ節ハ直チニ其旨御報知被下度候
- 一、會費ハ振替口座大阪參〇六六叁番、京都哲學會宛テニ御拂込被下度候
- 一、本誌ノ編輯ニ關スル通信及紹介・新刊書・寄贈雜誌等ハ凡テ本會宛テニ御發送被下度候

京都帝國大學
文學部 內 京都哲學會
振替口座大阪參〇六六叁番

定 規 文 註

- 會員ニあらざる講讀者の御註文及び廣告に關する件は内外出版株式會社へ御申込下され度候
- 本誌の御註文はすべて代金郵稅共前金にて御送り下さるべく候
- 振替貯金にて御送金は(振替大阪三二九五番三九三一番東京三九三一番)内外出版株式會社宛に願上候
- 前金切れの場合に帶封に「前金切」の印章捺捺致すべきに付直に御拂込下され度候
- 特に請求書及領收書等必要する場合は郵券參錢御送付下され度候

價 定

冊	數	定	價	一	郵	稅
一冊	冊	金	四拾	錢	金	壹錢
六冊	冊	金	貳圓四拾	錢	不	申
十二冊	冊	金	四圓八拾	錢	不	申

廣告料

一頁 金參拾圓 半頁ハ取扱不申

大正十一年九月廿五日印刷納本
大正十一年十月一日發 行
第七十八號 第七卷 第九册
京都帝國大學文學部內

不許複製
禁轉載

編輯者 京都哲學會
右代表者 寶 嚴 方 夫

發行者 大谷仁兵衛
印刷者 村上勘兵衛
印刷所 京都西洞院通七條南入
西入五十四番地

發行所

京都市下京區西洞院七條南
内外出版株式會社

本社 京都市下京區西洞院通七條南
出張所 京都市京橋區加賀町十番地
販賣所 京都市神田區錦町一ノ一
内外出版株式會社

東京堂 東海堂 北隆館
上田屋 至誠堂
寶文館 三文社
共盛社 大盛社
賣捌所 (大坂) 盛文館
(神戸) 寶文館
(京都) 共盛社 大盛社

伊勢專一郎著

支那の繪畫

菊版貳百餘頁

唐紙美裝

定價參圓貳拾錢

郵稅貳拾錢

世界の繪畫史には相對立する二つの流れがある。一は西洋の繪畫であつて、他は支那の繪畫である。日本の繪畫は此の本流から流れ出た一の傍流に過ぎない。然るに此の吾が美術の根幹も謂ふべき支那の繪畫に就ては從來一冊の手引もなかつた。此の缺陷を充すものは即ち本書の出現である。本書は支那畫入門の書であると共に、又繪畫は如何に見られなければならぬかと言ふ鑑賞其の物に就ての手引である。コロタイプの圖版數十葉は悉く各時代の代表的大家の大作を網羅し、中には未だ吾が國に紹介せられないものも少くない。

忽再版

(版内座日替攝
番五五九貳參)

社會式株版出外内

南條七院洞西市都京

元兌發

(大正五年四月六日)大正十一年九月廿五日印
(第三種郵便物認可)大正十一年十月一日發行(毎月一回一日發行)

哲學研究 第七十九號

定價金四拾錢 郵稅金壹錢